

NEC iStorageシリーズ iStorage NS300Ra

2

セットアップ

本装置をお使いになれるまでの手順について説明します。

「設置と接続」(30ページ)

本体の設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。

「システムのセットアップ」(44ページ)

本製品を使用するための初期設定の方法や、オプションソフトウェアについて説明します。

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

設置

本装置はEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書（添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの中にもオンラインドキュメントが格納されています）を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない
- アース線をガス管につながらない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で搬送・設置をしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- 1人で部品の取り付けをしない・ラック用ドアのヒンジのピンを確認する
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を越える配線をしない
- 腐食性ガスの発生する環境で使用しない

次の条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房機、エアコン、冷蔵庫などの近く）。

- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する場所。また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分（塩化ナトリウムや硫黄など）や導電性の金属などが含まれている場所。
- 薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本装置の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共有しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近く（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください）。







ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度（10℃～35℃）を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。
本装置では、前面から吸気し、背面へ排気します。

ラックへの取り付け/ラックからの取り外し

本装置をラックに取り付けます（取り外し手順についても説明しています）。

 警告	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 規格外のラックで使用しない ● 指定以外の場所に設置しない

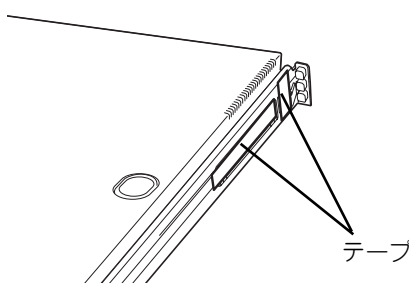
 注意	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1人で持ち上げない ● カバーを外したまま取り付けしない ● 指を挟まない ● ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない

取り付け手順

本装置は弊社製および他社ラックに取り付けることができます。次の手順でラックへ取り付けます。

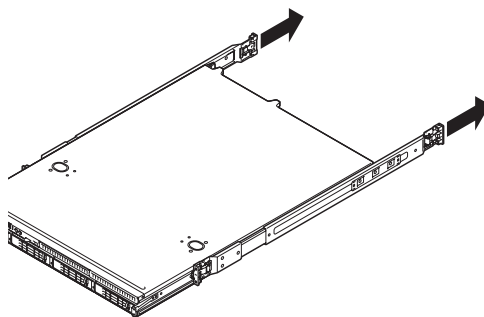
● ラック搭載前の準備

装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付け前に、テープをはがしてください。

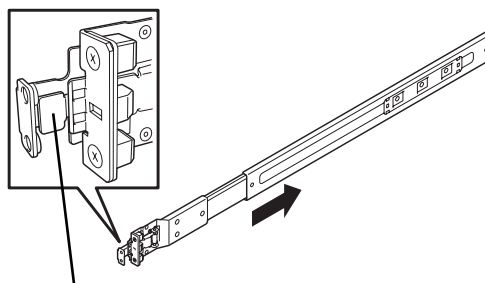


- レールアセンブリの取り外し

本体左右に取り付けられているスライド式のレールアセンブリを取り外します。

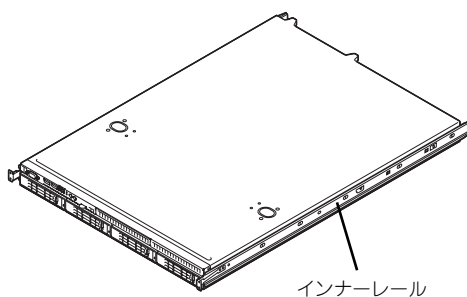


本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールアセンブリを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせてください。



ボタンを押すとロックが解除できます。

レールアセンブリを取り外すと、本体はネジ止めされたインナーレールのみが取り付けられた状態になります。



- 取り外したレールアセンブリは、この後の手順（レールアセンブリの取り付け）で使用します。
- レールに指を挟まないよう十分注意してください。

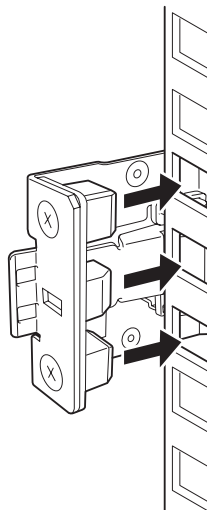
- レールアセンブリの取り付け

取り外したレールアセンブリをラックへ取り付けます。

レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付けます。この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

右図は右側（前面）を示していますが、右側（背面）、左側（前面/背面）も同様に取付けてください。

もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。



前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。



レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

● 本体の取り付け

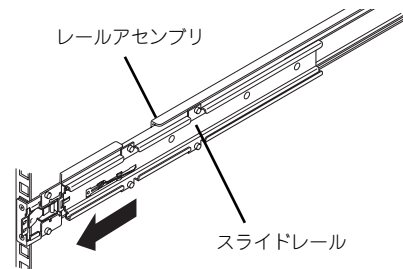
! 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指を挟まない

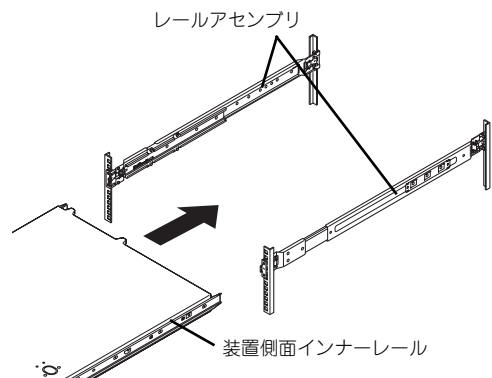
1. 左右のレールアセンブリのスライドレール（ベアリング部）を手前に引き出す。



2. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

左右のレールアセンブリに本装置側面のインナーレールを確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり、装置を固定できます。



- レールに指を挟まないよう十分注意してください。
- 差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。
- 設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。



初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

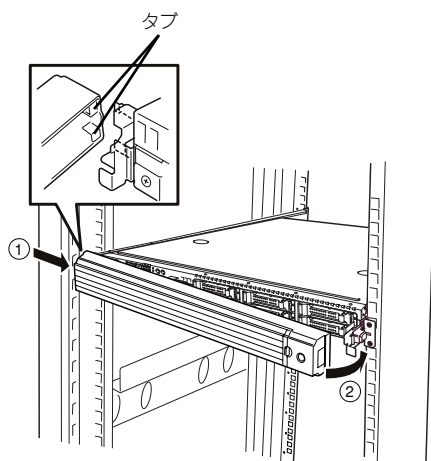
3. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。



ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

- フロントベゼルの取り付け

フロントベゼルの左端のタブを本体のフレームに引っかけるようにしながら取り付けます。(例として2.5型ハードディスクドライブモデルを示します。)



取り外し手順

次の手順で本体をラックから取り外します。取り外しは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

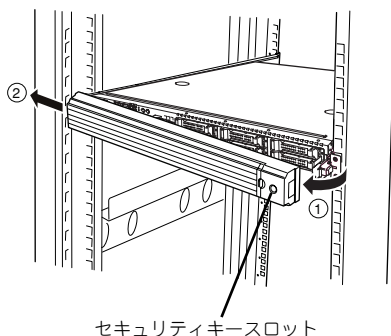
⚠ 注意



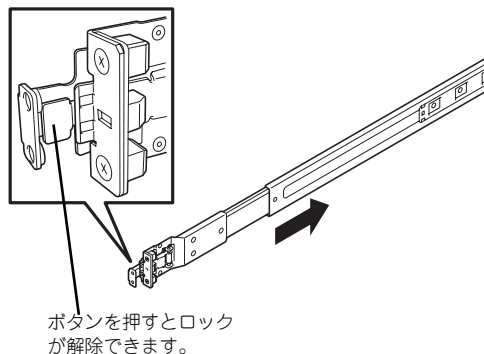
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

1. 本装置の電源がOFFになっていることを確認してから、本装置に接続している電源コードやインタフェースケーブルをすべて取り外す。
2. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。
(例として2.5型ハードディスクドライブモデルを示します。)



3. 本装置前面の左右にあるロック解除ボタンを押しながら本装置をゆっくりと静かにラックから引き出す。

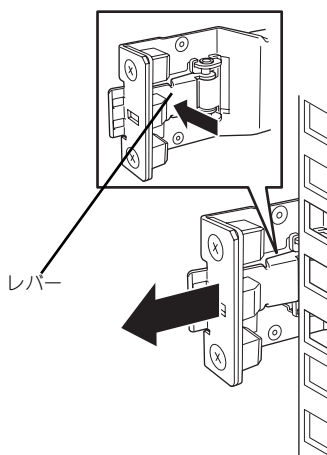


4. 本装置をしっかりと持ってラックから取り外す。



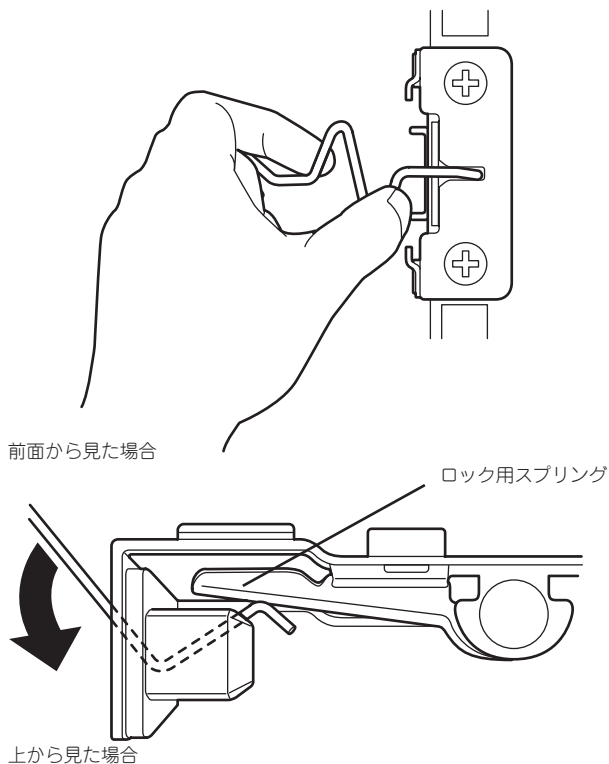
- 複数人で装置の底面を支えながらゆっくりと引き出してください。
- 装置を引き出した状態で、引き出した装置の上部から荷重をかけないでください。装置が落下するおそれがあり、危険です。
- レールに指を挟まないよう十分注意してください。

5. レールアセンブリをラックから取り外す場合はレバーを押しながらレールを矢印方向に引いて外してください。





複数のレールアセンブリを取り付けた場合、ロック解除するためのレバーを手で押せないことがあります。このときは、本装置に添付のスライドレール（アウターレール）取り外し工具でロックを解除し、レールアセンブリを取り外してください。



接 続

本体に周辺装置を接続します。

本体にはさまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次ページの図は標準の状態で接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなぎます。



重要

無停電電源装置や自動電源制御装置への接続やタイムスケジュール運転の設定、サーブスイッチユニットへの接続・設定などシステム構成に関する要求がございましたら、保守サービス会社の保守員（またはシステムエンジニア）にお知らせください。



警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながらない

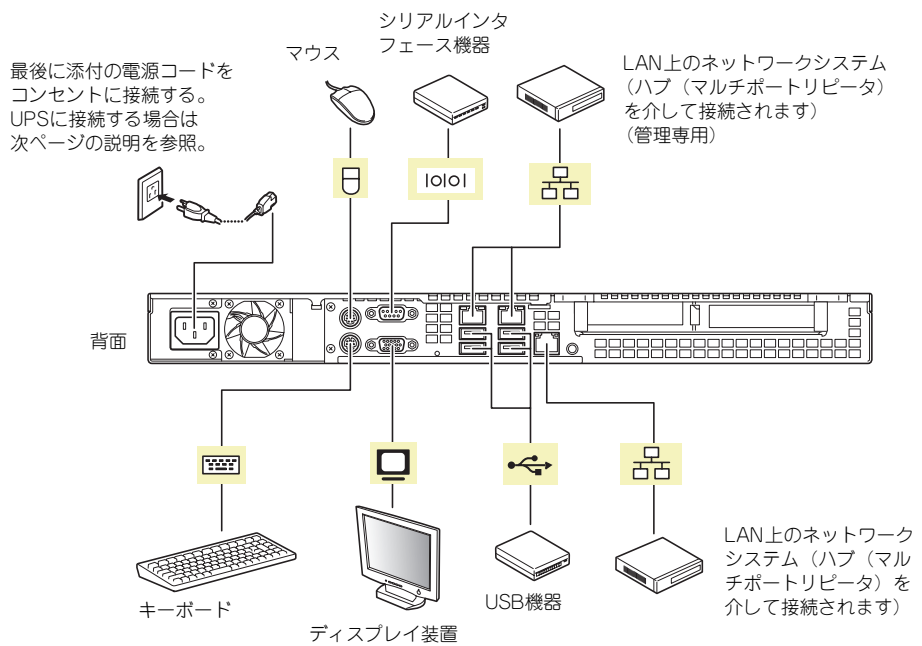
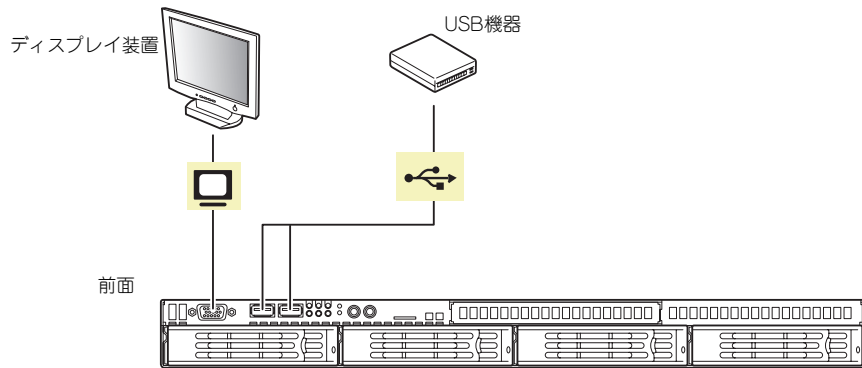


注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

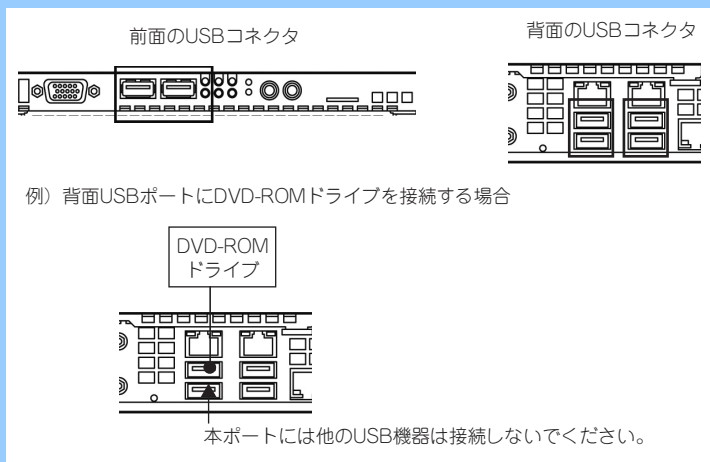




外部USB機器のご使用について

本装置に外付けUSB DVD-ROMドライブ（N8160-64/-85）を接続する場合は、フロントおよびリアの隣接するUSBポートに他の機器を接続しないでください。

※下図の枠で囲ったポートが「隣接するUSBポート」です。





- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- サードパーティの周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- SCSI機器は、オプションのSCSIコントローラを搭載すると接続することができます。SCSI機器内部の接続ケーブルを含め、ケーブルの全長が3m以内になるようにしてください。
- ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)を使用する場合は、NECフィールディングに相談してください。
- 回線に接続する場合は、設定機関に申請済みのボードを使用してください。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- PCIスロットに搭載したオプションのLANボードに接続したケーブルを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜いてください。その際に、マイナスドライバなどがLANやその他のポートを破損しないよう十分に注意してください。

周辺機器を接続した後は、ラックに搭載している場合は、周辺機器を接続した後、ケーブルタイなどでケーブルが絡まないように束ねてください。

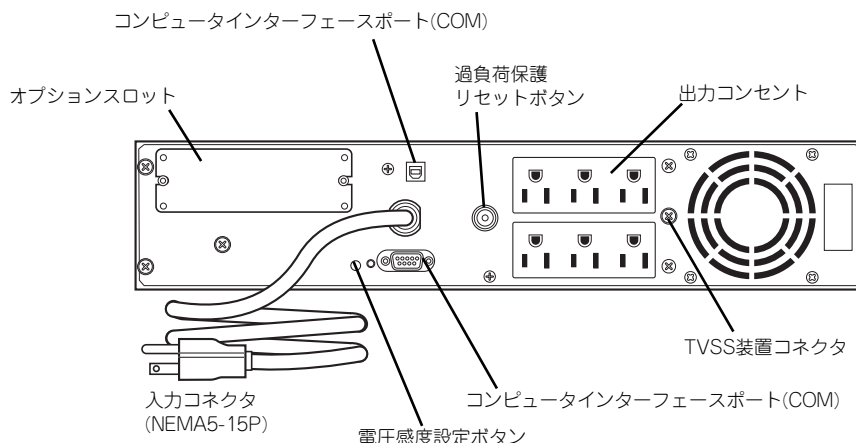


ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。

本体の電源コードを無停電電源装置（UPS）に接続する場合は、UPSの背面にある出力コンセントに接続します。

詳しくはUPSに添付の説明書をご覧ください。

<例>



本体の電源コードを接続したUPSによって、UPSからの電源供給と本体のON/OFFを連動(リンク)させるためにBIOSの設定変更が必要となる場合があります。BIOSセットアップユーティリティの「Server」－「AC-LINK」を選択し、適切なパラメータ値に変更してください。詳しくは133ページを参照してください。

システムのセットアップ

システムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されています。

セットアップの準備

本装置を設定する前に、本体および本体標準装備のLANポートに割り当てる次の情報を準備してください。

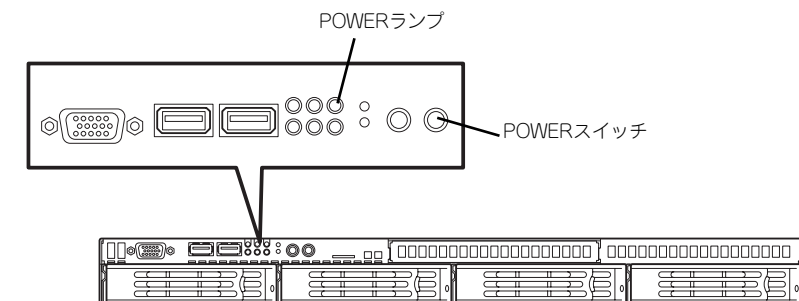
「各部の名称と機能」(9ページ)を参照して、LANポートの位置を確認してください。

- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- IPアドレス
- サブネットマスク

電源のON

システムの電源をONにします。

1. 本体の電源コードがコンセントに接続されていること、および本体のLANポートがネットワーク環境として使用するハブに接続されていることを確認する。
2. 本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。



初期設定

管理PC からリモートデスクトップ接続できるようにするために、本装置の初期設定を行います。初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にある管理PC (Windows 2000+ IE6.0/Windows Server 2003/Windows Server 2003 R2/Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2/Windows XP/Windows Vista/Windows 7)と添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。



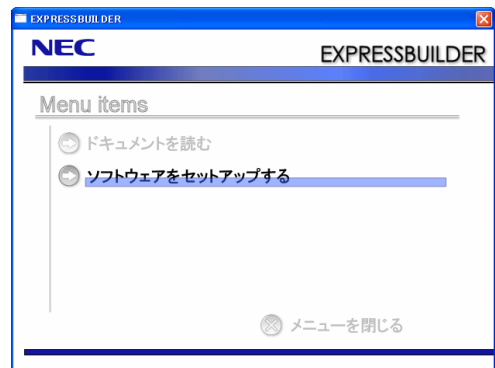
詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照したい場合は、以下のファイルを開いてください。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROM の ¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

1. 本体の電源をONしたら、管理PCの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

オートラン機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、光ディスクドライブ内の「¥autorun¥dispatcher.exe」を実行してください。

2. 「ソフトウェアをセットアップする」をクリックして、表示されたメニューから「初期設定ツール」をクリックする。

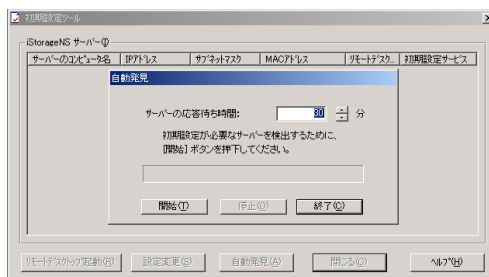


3. 初回のみ「ご確認」の画面が表示されます。装置添付の使用許諾契約書をご一読の上、[OK] をクリックする。

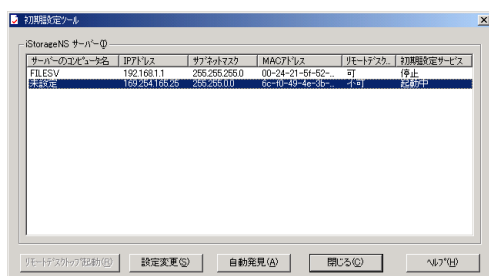


4. 初期設定が必要なサーバーを検出するために、[開始] をクリックする。

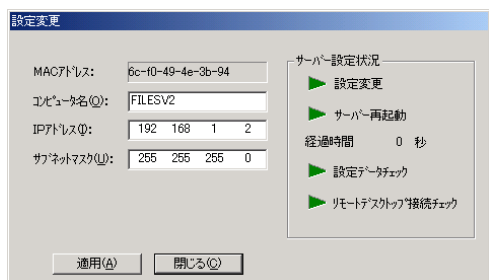
対象となるサーバーが、初期設定ツール画面内の[サーバーのコンピュータ名]欄に"未設定"と表示されます。"未設定"のサーバーが検出されましたら、[停止]をクリックして自動発見を停止後、[終了]をクリックして自動発見を終了させます。なお、対象となるサーバーのOSが起動するまでには、構成によって、20～30分かかる場合があります。30分経っても検出できない場合は、再度[開始]をクリックしてください。



5. "未設定"のサーバーのリモートデスクトップ起動の表示が「確認中」から「可」に変わった場合は、リモートデスクトップによる接続が可能なので、"未設定"のサーバーを選択し、[リモートデスクトップの起動]をクリックしてステップ7に進む。「不可」に変わった場合は、"未設定"のサーバーを選択し、[設定変更]をクリックする。



6. コンピュータ名、IPアドレス、サブネットマスクを入力して [適用] をクリックする。



7. 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックする。

サーバー設定の変更が始まり、サーバー設定状況の内容が順次更新されます。

8. 完了メッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。

以上で、本装置の初期設定が完了し、リモートデスクトップ接続で管理できる状態になりました。



リモートデスクトップ接続での設定

リモートデスクトップ接続を行い、以下を参照して必要な設定を行います。
設定方法の詳細が必要な場合は、管理者ガイドを参照してください。

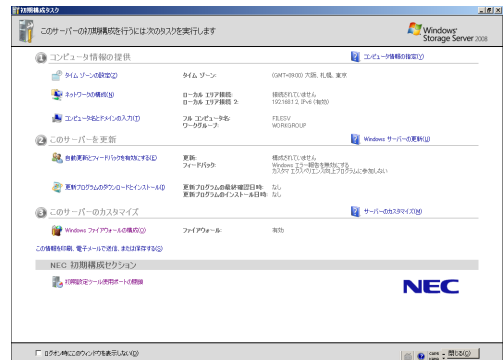


リモートデスクトップでの接続方法は、本書の「本装置への接続」(22ページ)を参照してください。

1. リモートデスクトップを起動し、Administratorでログオンする。

2. 初期構成タスク画面が表示されますので、必要事項を設定する。

- － タイムゾーンの設定
日時が自動更新の環境でない場合は設定してください。
- － コンピュータ名とドメインの入力
初期設定ツールでコンピュータ名を変更していない場合、ドメインに参加する場合は設定してください。
- － 初期設定ツールで使用したポートを閉鎖
初期設定ツールで使用したポートを閉鎖してください。



3. [スタート] – [Windows セキュリティ] をクリックする。

4. [パスワードの変更] をクリックして、パスワードの変更を行う。



- 本装置のセキュリティを保つために、出荷時のadministratorのパスワードを必ず変更してください。
- パスワードの文字数は6文字以上である必要があります。また、パスワードには、英大文字、英小文字、数字、アルファベット以外の文字の4つの種類のうち3つの種類が使用されていなければなりません。
- パスワードの有効期限は初期設定では42日になっておりますので、お客様のポリシーに合わせて適宜変更してください。

その他の設定について

初期設定が完了しても、シャドウコピーなどNASの各種機能を使用するための詳細設定や、あらかじめインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。管理者ガイドおよびオンラインドキュメントを参照して、必要なセットアップを行ってください。

本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- Universal RAID Utility
- エクスプレス通報サービス
- エクスプレス通報サービス (HTTPS)

すべてのセットアップが完了したら、本装置のシステム情報のバックアップをとります。バックアップはEXPRESSBUILDERを使用します。EXPRESSBUILDERの起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、「EXPRESSBUILDER」(72ページ)を参照してください。



オペレーションシステム (OS) を再インストールする場合は224ページを参照してください。

BIOS設定の注意点

本書に記載の保守作業を正しく行うためには、BIOS設定の確認・変更が必要です。
これらの作業を行う場合は、以下の点に注意してください。



BIOSの設定は、出荷時に本装置にとって最も標準で最適な状態になっております。次に説明する場合以外には、SETUPを使用する必要はありません。

BIOSの設定方法

本体の電源をONにするとディスプレイ装置の画面にPOST（Power On Self-Test）の実行内容が表示されます。「NEC」ロゴが表示された場合は、<Esc>キーを押してください。しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to boot from Network

ここで<F2>キーを押すと、SETUPが起動してMainメニュー画面を表示します。
BIOSの設定についての詳細は、5章の「システムBIOSのセットアップ (SETUP)」を参照してください。

本装置をEXPRESSBUILDERやバックアップCD-ROMから起動する場合

「Boot」メニューを選択し、以下の順にデバイスが設定されていることを確認する。

- (1) [IDE CD]
- (2) [USB CDROM]
- (3) [USB FDC]
- (4) [USB KEY]
- (5) [IDE HDD]
- (6) [PCI SCSI]
- (7) [PCI BEV]

上記の順でなかった場合は設定を変更してください。

コンソールリダイレクションを使用して管理PCからリモート操作を行う場合

「Advanced」→「Peripheral Configuration」メニューを選択し、以下のように設定されていることを確認する。

- [Serial port A] : Enabled
- [Base I/O Address] : 3F8/IRQ 4

「Server」→「Console Redirection」メニューを選択し、以下のように設定されていることを確認する。

- [BIOS Redirection Port] : Serial port B
- [Baud Rate] : 19.2K
- [Flow Contraol] : XON/XOFF
- [Terminal Type] : PC ANSI



オプションのN8117-01A増設RS-232Cコネクタキットを使用して、シリアルポートAからコンソールリダイレクション機能を使用する場合は、上記の設定をシリアルポートBに対応した値に設定してください。

無停電電源装置（UPS）を使用する場合

無停電電源装置（UPS）を利用して自動運転を行う場合には、BIOSの設定を変更する必要があります。以下の手順に従ってBIOS設定を変更してください。

- **UPSと電源連動（リンク）させる場合**
 - － UPSから電源が供給されたら常に電源をONさせる。
「Server」→「AC-LINK」→「Power On」
 - － POWER/SLEEPスイッチを使ってOFFにしたときは、UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする。
「Server」→「AC-LINK」→「Last State」
 - － UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする。
「Server」→「AC-LINK」→「Stay Off」
- **シリアル接続のUPSを使用する場合。**
 - － 「Server」→「Console Redirection」→「BIOS Redirection Port」の設定を「Disabled」にする（出荷時設定は「Disabled」です）。

オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていないので、ご使用の前にインストールする必要があります。本製品をサポートするオプションソフトウェアについては、販売店などにご確認ください。

各オプションソフトウェアをインストールする場合は、まずは以下の手順で本装置にアクセスします。

1. 管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続する。
リモートデスクトップ接続については、「本装置への接続」を参照してください。
2. Administrator権限を持つユーザで本装置にログオンする。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMを本体の光ディスクドライブにセットする。
4. リモートデスクトップ内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

以降のセットアップの手順については、各オプションソフトウェアのマニュアルに従ってください。



オートラン機能でセットアッププログラムが起動するオプションソフトウェアについては、リモートデスクトップ上では自動起動しませんので、インストールディスクの中の「autorun.inf」の中に記載されているセットアッププログラムを実行してください。



オプションソフトウェアをインストールする場合は、各ソフトウェアの必要システム情報を参照してください。

